

古事記

めぐり旅

Vol. 7

身近な場所にある古事記ゆかりの地をめぐってみませんか？



や た が ら す

八咫鳥神社

神武天皇を導いた、勝運の神

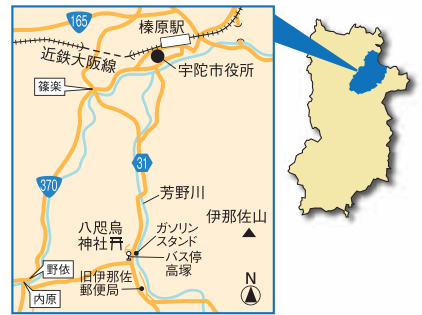
「荒ぶる神がひしめくここから、奥に入ってはいけない。八咫鳥を遣わし導かせよう」。

天つ神の御子であるカムヤマトイワレビコノミコト(後の神武天皇)が熊野から大和へ入ろうとしたとき、天から高木神の音が響きました。

イワレビコは八咫鳥に先導されて熊野の山中を抜け、吉野、宇陀、忍坂と軍を進めて大和を平定。橿原に朝廷を開いて初代・神武天皇が誕生しました。

この八咫鳥を祀るのが、宇陀市にある八咫鳥神社です。祭神は建角身命。社伝によれば、八咫鳥はこの神の化身と伝承されています。

社の創始は古く、『続日本紀』に飛鳥



「八咫鳥神社」

園宇陀市榛原高塚42

☎0745-82-2457(宇陀市観光協会)

近鉄榛原駅南口より奈良交通バス「菟田野」行きまたは「東吉野村役場」行き乗車、「高塚」下車。北西に約250m。

時代の慶雲2年(705年)、宇陀に八咫鳥社を祀る、との記述が残ります。
神武天皇を橿原まで案内し、「神武東征」の勝利に貢献した「導きの神“”勝運の神“”として古来より崇敬を集め、南北朝時代には後醍醐天皇の篤い信仰により大いに栄えたと伝わります。
そして現代。八咫鳥は日本サッカー協会のシンボルマークおよび日本代表の紋章となり、再び脚光を浴びています。「ボールをゴールへ導きますように」と、境内にもサッカーボールを頭上に載せた八咫鳥の像が羽を広げます。古来も今も、勝利へと。軍神を祀る古社は、人々の祈りを受けて、鎮守の社にたえずみまいます。



1月24日(土)に「古事記のまつり」を開催!

※詳しくは23ページへ



「伊那佐山」

鳥居越しに臨む伊那佐山は「古事記」にもその名を記す。山頂には神社が鎮座し、神武天皇ゆかりの歌碑が建つ。



「八咫鳥の像」

境内にある八咫鳥像。近年はサッカーファンはもとより、スポーツの勝利や安全を祈願する社としても信仰を集める。



特別展「大古事記展」は12月14日、大好評のうちに閉会いたしました。会期中には多くの方々にご覧いただき厚く御礼申し上げます。



県は今後も「記紀・万葉プロジェクト」を推進し、「本物の古代と出会い、本物を楽しめる奈良」の実現を目指してまいります。2月には「大古事記展」の魅力を多くの方に楽しんでいただけるパンフレット「なら記紀・万葉名所図会」の新版を発行しますので、ご期待ください。

園県ならの魅力創造課 ☎0742-27-8975 FAX 0742-27-7744 ぐら記紀・万葉